

# 利根川・江戸川ブロック公述書

開催場所：取手福社会館講座室 A・B

開催日時：平成19年3月7日

届出者の住所

茨城

都・県

取手

市・区・町・村

年代 (○で囲んで下さい)

10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60歳以上

性別 (○で囲んで下さい)

男性・女性

公述人 1  
利根江戸-5

意見の概要

利根川水系河川整備計画に位置けられている稲戸井調整池の利水計画があまりにも過大な想定(基本高水を八斗島で $2200\text{m}^3/\text{s}$ )とあり、これを稲戸井調整池に流入しよるとすれば、満水容量 $3080\text{万}\text{ト}$ は25分程度でその機能は果敢なくなくなる。そこで掘削による容量を増やす案が提示(3m→5m)されたが、これは人造湖をつくるにきものでもない。地下水、雨水を溜め周辺の生態系を破壊することは容易に類推できる。また、流入した濁流は川と違って滞留するため掘削部分の格好の沈砂池となり土砂で埋まってしまいその機能は失われる。しかも長い年月は要しない。これはハッ場ダムをはじめ幾多の現況から言える。溜った土砂を除去するには掘削費の数倍を要することは目に見えている。費用対効果をはじめ事例研究や洪水想定の見直し、掘削等長期的視野にたって流域住民参加のもとで、公算協議することを求めるものです。

※ 楷書横書きで400字以内にまとめて下さい。

届出者の住所

茨城

都・県

取手

市・区・町・村

年代 (○で囲んで下さい)

10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60歳以上

性別 (○で囲んで下さい)

男性・女性

公述人 2  
利根江戸-2

意見の概要

私は、利根川水系河川整備計画の根幹を下す八斗島地点の基本高水 $2200\text{m}^3/\text{s}$ に深い疑念を持つものです。以下のようになら公述したたく届出ます。

1. 八斗島における基本高水 $2200\text{m}^3/\text{s}$ は恣意的な数字の積重ねてしかならない。科学的根拠は極めて乏しい。
2. 八斗島における過去50年余の洪水で $1000\text{m}^3/\text{s}$ を超えたものは一度も下りない。実績を尊重すべきだ。
3. 河川整備基本方針の根拠を下すキャスリーン気風の洪水流量は $1600\text{m}^3/\text{s}$ と $1700\text{m}^3/\text{s}$ ともいわれる。しかも推測値でしかならない。 $2200\text{m}^3/\text{s}$ はいかに過大な。
4. 河川整備基本方針では $2200\text{m}^3/\text{s}$ の内、 $5500\text{m}^3/\text{s}$ 以上流の9割をカットするというのが、新規のハッ場ダムを加えても $1600\text{m}^3/\text{s}$ にしか下らない。残る $3900\text{m}^3/\text{s}$ をカットするにはハッ場ダムの根を10数基つくらなければならない。
5. 河川整備計画の基礎に乏しい数字の恣意的な推測値が用いられている。故に整備計画に入ることは自体問題である。

※ 楷書横書きで400字以内にまとめて下さい。

届出者の住所

千葉 都・県 我孫子 市・区・町・村

年代 (○で囲んで下さい)

10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60歳以上

性別 (○で囲んで下さい)

男性・女性

公述人3

利根江戸-11

意見の概要

田中、菅生調節池の耕作者に水害補償を考慮して下さい。  
 田中調節池に約1000ha、菅生調節池に約520haの  
 土地改良事業完了した優良農地が存在し、生産力も高く  
 地域農業生産力の中心となっております。しかし、昭和  
 30年以降、14回の溢流による被害を受けております。  
 越流水深1m以上が5回もありました。田中、縮戸井、  
 菅生調節池は治水効果高く、現状でも合計1億800万  
 円の調節容量があり、洪水量約5千立方メートルを  
 行っておりると聞いております。ダム等より効率的であり、  
 10年のうち9年間は豊かな農産物を生産し、地域経済  
 を活性化しております。田中、菅生調節池には、  
 水害補償制度がなく、耕作者は大変な損害を被っており、地  
 価は大変安くっております。今度の整備計画で田中地  
 区、越流堤450mを上流に移転させ、1200mに拡  
 大されるとうわさでお聞きしました。水害補償制度を確  
 立させ、耕作者の了解理解を得て下さい。

(男)

水害

※ 楷書横書きで400字以内にまとめて下さい。

以下の部分について公表します

届出者の住所

茨城 都・県 取手 市・区・町・村

年代 (○で囲んで下さい)

10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60歳以上

性別 (○で囲んで下さい)

男性・女性

公述人4

利根江戸-48

意見の概要

昭和 60 代までは旧建設省で様々な治水事業を行  
 ってきた頂きました。洪水の被害も無くなり、人々  
 の関心が川からはなれてきました。ところが平成に  
 なるとう心のやすらぎの場を求め、再び川に関心を持  
 つようになり、河川環境問題がクローズアップされ  
 るようになってきました。近年の降雨の状況は、  
 いつ洪水の被害にあうかわかりません。ここでもう  
 一度治水に力を入れていただき、川の浚渫、堤防強  
 化、稲戸井調整池計画、印旛導水路計画などの事業  
 を早急に進めていただきたい。河川環境について  
 は、人々の生命財産が確保されてこそ考えられるべ  
 き性格を持っています。ソフト面の環境整備につい  
 ては、流域自治体と住民が連携しいきますので、ハ  
 ード面については、治水、利水事業とあわせて国に  
 おいて強化の為の予算措置をしていただきたい。

届出者の住所

茨城

都

取手

市・区・町・村

年代 (○で囲んで下さい)

10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60歳以上

公述人5

性別 (○で囲んで下さい)

男性・女性

利根江戸-31

利根川水系流域整備計画策定にかかわる公述意見の概要

流域住民の暮らしや安全、環境保全に深くかかわる河川整備計画が流域住民の合意形成の上に策定されるよう願って、利水問題についてとりわけ八ッ場ダムの建設も含め、これ以上のダム建設は不要との立場で公述を希望するものです。

これまで国や地方自治体は過大な水需給予測によって多くのダム計画を進めてきました。水需給の実績は予測とはかけ離れていることが常で、度重なる下方修正をおこなっても尚、実績との差は埋まってはいません。それどころか茨城県に見られるように、いまや水道用水だけで、約57万人分、工業用水を合わせると200万人の余剰水をかかえるまでになっています。多大な税金の無駄遣い、高い水道料金の押し付け、環境破壊など、不必要なダムがもたらす害は計り知れません。茨城県はすでに人口減少期に入っています。よって不必要な八ッ場ダム建設事業を利根川水系河川整備計画に位置づけないよう求めるものです。

届出者の住所

茨城

都

取手

市・区・町・村

年代 (○で囲んで下さい)

10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60歳以上

性別 (○で囲んで下さい)

男性・女性

公述人6

意見の概要

利根江戸-38

利根川と小貝川の合流部分の改修促進を求める公述を希望します。
利根川と小貝川との合流地域は、利根川の水位が上昇し、小貝川に逆流する現象が頻繁に起きています。小貝川は昭和25年右岸が、昭和56年8月には左岸堤防が決壊大きな被害を出しました。未だ、危険ヶ所が残されています。(平野地区)平成16年9月に、利根川水系県南水防事務組合からも改修要望書が出され、地域にとって重大問題です。早急なる改修を求めるものです。
利根川水系河川整備基本方針では、従前の利根川放水路計画が廃止となり、新利根川放水路計画が出されていませ
小貝川の逆流がここ大きくなるのではと危惧するところ
です。基本高水が過大であり、再考を求めるとあわせ、安全確保のために、改修促進を求めるものです。

届出者の住所

茨城県

都・県

取手市

市・区・町・村

年代 (○で囲んで下さい)

10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60歳以上

性別 (○で囲んで下さい)

男性・女性

公述人7  
利根江戸-32

意見の概要

別紙のとりこ

別紙

河川整備計画促進の観点からの意見

- ① 利根川本川から小貝川へのバックウォーター防止として、印旛沼～花見川～東京湾に至る放水路の整備促進と、布川(利根町)狭窄部の掘り下げの検討。
- ② 同時に放水路沿川流域(千葉県域)の親水性をより高めるため、環境事業として河川空間の日常的利用の検討(市民のコミュニティー空間の整備)。
- ③ 利根川小貝川(旧取手～旧藤代)を囲回するサイクリングロードの整備検討
- ④ 魚道の整備と既存の魚道の再点検など

Blank grid for additional comments.

※ 楷書横書きで400字以内にまとめて下さい

以下の部分について公表します

届出者の住所

茨城県

都・県

取手市

市・区・町・村

年代 (○で囲んで下さい)

10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60歳以上

性別 (○で囲んで下さい)

男性・女性

公述人8  
利根江戸-36

意見の概要

1. 新聞報道によると、全国的に「浸透破壊」調査が行われたようですが、当管理区間ではその後も実施されていなければ、地震時にみける堤防の安定(液状化、円弧すべりなど)を含めた調査、検討を早急に実施し堤防の安全度を確認してほしい。

2. 小貝川の岡堤から下流域にみける浸水対策(バックウォーター対策)は、軟弱地盤地帯で条件の悪い小貝川側で考えるより利根川本川で考える心算で、以下の方法などを検討してほしい。

- (1) 放水路の整備による分流通式(印旛沼～東京湾)
- (2) 狭窄部(布川)の引堤及び河道塚削
- (3) 調節池による流量調節の促進
- (4) スーパー堤防の建設

3. 多自然型川づくりの推進

4. 既設魚道の実態調査と魚道の整備

5. サイクリングロードの整備(旧取手～旧藤代)

※ 楷書横書きで400字以内にまとめて下さい

届出者の住所

茨城

都・県

取手

市・区・町・村

年代 (○で囲んで下さい)

10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60歳以上

公述人 9

性別 (○で囲んで下さい)

男性・女性

利根江戸-54

意見の概要

30年間、稲戸井遊水地を見続けてきた者として、利根川水系における河川整備計画の「稲戸井調節池の運用と大規模掘削」について、見直されるよう求めます。

稲戸井調節池(現在は遊水地)は利根川中流域では規模の大きな河川林があり、遊水地は、洪水期に利根川から水が入り、遊水地の役割とともに、水が入ることで動植物に良い環境を与えています。稀少種の植物も多く生育し、小動物も生息し、野鳥も多く見られます。特に1年を通して猛禽類が見られ、多い日は1度に数種類の鷹などを見られる貴重な場所でもあります。

今回発表された計画は、大洪水を想定し、河川敷内を5メートル掘削するもので、良質な自然環境に深刻な影響を及ぼし、河川敷は一部の河川林地帯を除き地下水が染み出す湿地となるでしょう。植物にも、小動物にも大きな影響が出ます。それらを餌としている猛禽類なども見られなくなるでしょう。

近年集中豪雨などによる被害の要因には、乱開発や、危険地帯への宅地造成、山林の荒廃、休耕田の増加など、人為的なものであるように思えます。洪水対策で「遊水地」はとても効果的であると思います。調節池ではなく「遊水地」として活用を望むものです。以上の理由から調節池や大規模掘削を見直されよう要望します。

※ 楷書横書きで400字以内にまとめて下さい。